

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第10回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成27年3月6日（金）13:00～16:00に、栃木県栃木市の藤岡遊水池会館において「第10回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員7名全員にご出席いただきました。

【委員名簿】（五十音順・敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
栗原 隆	栃木県立博物館 学芸員
清水 義彦	群馬大学大学院 教授
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
守田 優	芝浦工業大学 教授

はじめに、事務局より第9回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリング調査結果を報告し、調査結果の評価、今後のモニタリングのあり方などについてご意見やご助言を頂きました。3名の委員からも、渡良瀬遊水地内の動植物調査結果について報告がありました。また、事務局より今後の掘削に関する検討として、掘削予定と造成の考え方を説明し、水生植物再生を見据えた掘削後の表土巻き出しや、つる植物の抑制について意見が出されました。

○主な意見

- 本年度秋季に実験地でセイタカアワダチソウ群落が減少しているのは、除去作業の効果であると考えられる。
- つる植物で覆われてしまっている箇所が多く、チュウヒの狩場が減少している。また、つる植物で覆われた部分は、ヨシ焼き時に火が入りにくい。今後、つる植物による荒地化が進行することも考えられるので、対策を検討してほしい。
- 土壌水分調査を行っている3地点では、浅層地下水位と土壌水分量の関係がみられる。今後、さらに調査を進めて、これらの関係を一般化できると良い。
- 過去に、学校のビオトープでシードバンクを含んだ撒きだしを行い、在来の沈性植物等を再生させたという報告がある。このような表土活用は、水生植物の再生に対して、有効と思われる。

【委員会の様子】

